

LOVE IN JAPAN

あらすじ

CDことチャクラ・ダーリーは、映画監督になるためにボンベイにやってきたが、なかなかチャンスがなく食事もままならない窮乏生活を送っている。

あるときCDは、大家のメヘター夫人から、日本在住の大金持ちティクーを紹介してもらう。

ティクーが女優バルカーラーニーの大ファンであることを知ったCDは、彼女を製作者に迎えること、日本でロケすることを条件に、ティクーに資金提供を約束させる。

映画を撮るまえに、ひとまずユクター・ムーケイをヒロインに懐メロ・リミックスのミュージック・クリップ集を撮影することになったのだが、やとったカメラマンも振付師も、バルカーラーニーの大ファンだったので話がややこしくなる。

一方、メヘター夫人の息子ロッキーは俳優志望で、1年の猶予を与えられて映画界入りを目指している。CDのスタッフとして働きはじめるが、日本にくるとコーディネーターのめぐみと仲良くなる。

映画のヒーローはボビー・カーンという俳優だったが、約束の日になっても来日しない。やむなくCDはロッキーを主演にして撮影を開始。

遅れて来日したボビーはそのことに怒り、めぐみとドライブ中のロッキーに襲いかかる。

ボビーは実はワーンガーというボスの率いるシンジケートの一味で、麻薬の密輸をしていた。ロッキーの友人のジャーヒドも、香港でギャンブルに手をだし、大負けして密輸の手助けをさせられていた。

命を狙われたジャーヒドは瀕死の重傷を負うが、一味の一人ジョンに助けられる。ジョンは息子を麻薬中毒で亡くし、今や組織殲滅を目指していたのだ。

キャスト

主人公:ロッキー (モシン・カーン)

ヒロイン:日本人コーディネータ めぐみ (めぐみ) 映画初出演。ディスティニーキャスト(株)所属。
セントラルパークのシーンでバックダンサーも務める。

CDことチャクラ・ダーリー (ラジパル・ヤタヴ) 明日が来なくても(2003)

大金持ちのティクー (ティクー・タルサニア) Devdas(2002)

大家のメヘター夫人 (ケトキ・ディヴ) 明日が来なくても(2003)

女優のバルカー・ラーニー (ウパサナ・シン) Juddai (1997)

カメラマンのバブー (ムスタク・カーン) Mission Kashmir (2000)

振り付け師のパワン (ラジュ・スリヴァスタヴ)

密輸シンジケートのボス ワーンガー (シャクティ・カプール)

友情出演:ユクター・ムーケイ(本人役)

スタッフ

監督:アクラム・シェーク プロデューサー:羽根三千代 音楽:シカンダール・シン

振付:ヴィッキー・カーン スタント:アクラム・シェーク、メモード・バクシー

劇中の懐メロと主なロケ地

ダンスシーンで使われているインドの懐メロ

Honthon Pe Aisi Baat (Jewel Thief :1967年) Love in Tokyo (Love in Tokyo:1966)

Dilbar Dil Se Pyare (Caravan :1971年) Piya Tu Ab To Aaja (Caravan :1971年)

主なロケ地

(名古屋市)久屋大通公園、名古屋駅、大須商店街、大須観音

(安城市)三河安城駅、堀内公園、グランドティアラ安城、コーヒーショップJUN

(その他)内海海岸、東京駅、道頓堀

